

U35 のメンバーが市民にわかりやすくレポートします！

傍聴記

10年後の自分と、京都のまちの、
ミライとモンダイを考える。

京都市基本計画審議会

レポーター 湯浅 靖代さん



食空間コーディネーター。五節句など京都の生活文化を次世代に伝えると共に伝統産業京焼・清水焼振興のサポートも。「私と京都のマニフェスト」市長賞受賞

第5回 活性化部会(産業・観光・行政経営分野)

開催日:平成22年4月5日(月) 会場:本能寺文化会館

主な議事:基本計画第1次案「分野別方針」・「行政経営の大綱」について意見交換

POINT

1

「第1次案」に向けた
意見の調整

例えば「大学の在り方」について、「集積された、大学がたくさん集まる大学のまち・学生のまちにしたいのか、それとも京都のポテンシャルに魅力を感じて人が集まるまちにしたいのか。」など、先出の意見の確認や修正を行いつつ、第1次案として発表する為に、よりシンプルでメリハリある案を作成しようという議論がありました。

会議の
ポイント

POINT

2

上質な旅の提供を
観光都市としての質を向上

5000万人観光都市を実現した京都ですが、繁忙期の宿泊施設や規模の大きな国際会議場が不足しているという問題を抱えています。現状と課題を踏まえ、ハードを整備し、富裕層の集まる質の高い観光スタイルの提供を「第1次案」に盛り込むべきではないか、との議論がありました。

この会議を通して
湯浅さんが思ったこと

2チームに分かれての意見調整でしたが、時間を超過した白熱した議論が繰り広げられました。特に印象に残ったのは、観光化を進めることにより、CO2排出が増える、と言う審議会内での議論であるのに矛盾が生じるという点でした。分野間の調整の重要性を感じました。まとまりつつある意見をもう一度洗い直し、より良い「ことば」を模索して固めていく様子に、委員の方々の京都に対する熱い思いを感じました。だからこそ話題に上ったのでしょうか、資料の中に私を含め、一般市民には聞き慣れない難解な言葉がまだまだ見受けられるので、検討して頂ければと思いました。

京都の産業を活性化するために、次世代の子供たちへ京都の伝統産業の良さを伝えることは、大変重要な事です。たとえば、市バスや地下鉄の座席シートに西陣織を使ったり、漆を塗ったつり革などを採用した伝統工芸品車両を走らせるのはどうでしょう。子供の好きなバスや電車に京都の産品が使われ、直にふれることで身近に感じられるのではないのでしょうか。同時に、観光客の目にもふれるので、同時に京都ブランドを知っていただける機会となり日本中に、世界中に発信されると思います。

未来に向けた湯浅さんの提案
私ならこうする！

今年は10年に一度の、京都市の10年後を考える年です。
市政をよく知り、よく考え、利用し、参加し、仲良くなろう

